

大好き図書館！

第62回こどもの読書週間「出会えたね。とびっきりの1冊に。」

4月23日(木)～5月12日(火)はこどもの読書週間です。今年も様々な催しを企画しています。是非、図書館に遊びに来てください。

期間中の主なイベント

- ・児童図書のリサイクル会（期間中）
- ・端午の節句フォトブース（期間中）
- ・一日図書館長（4月26日(日) 13:00～15:00）
市内の小学校6年生2人が一日図書館長になって、いろいろな体験をします。
- ・ビンゴ大会（5月5日(祝) 13:30～14:30）
- ・おはなし会&かぶとの折り紙（5月5日(祝) 14:30～15:30）
こどもの日のおはなし会とミニゲーム、大きなかぶとの折り紙を作ります。作ったかぶとをかぶり、フォトブースで写真撮影ができます。

※詳細は図書館だよりや図書館備付けのチラシをご覧ください。

新型コロナウイルス感染症の影響で一部イベントの中止する場合があります。詳細は淡窓図書館にお問い合わせください

4月の「おいでよ！おはなし会」は中止します

4月の休館日（○…休館日）

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		



おはなし会の様子▶



◀リサイクル会の様子

令和2年度子ども司書講座受講生募集期間延長のお知らせ

広報ひた3月1日号で募集記事を掲載した子ども司書講座の受講生募集受付は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下記のとおり期間を延長します。

募集期限 4月28日(火)

新刊情報

ハートウッドホテル4
ねずみのモナと永遠のわが家
ケイリー・ジョージ/作 久保陽子/訳
高橋和枝/絵
童心社



突然モナを訪ねてきたネズミのストロベリーさんは、モナのお母さんとおそろいのペンダントをさげていた。ストロベリーさんが語るモナの家族の秘密とは？しかしそのころ、巨大な山火事がハートウッドホテルに迫り…。小さなモナの物語、最終巻。

コラム

心の架け橋 日田市障がいによる差別を解消し誰もが心豊かに暮らせるまちづくり条例

障がいや障がい者への差別を解消する条例の施行から1年が経ちました。市では、障がいの有無にかかわらず、誰もが互いに尊重し合いながら共生するまちづくりを行うためにこの条例を作りました。条例では、下記のことを市のルールとして決めています。

- ◎障がい者への差別的取り扱いや虐待を禁止します（第7条）
- ◎障がいや障がい者への相互理解を促進します（第8条）
- ◎合理的配慮の提供に取り組みます（第9条・第10条）
- ◎トラブル解決の仕組みを作ります（第11条～第17条）

「障がい者に合理的配慮を」と聞くと、とても大変なことと感じる人がいるかもしれません。しかし、合理的配慮とは難しいことではなく、困りごとを解決できるように「一緒に考えること」が大切なポイントです。障がいは「特別なこと・他人事」ではなく「一緒に考えること」で解決できることも多くあります。

市では、この条例の説明や障がい理解を深めるための出前講座を行っており、これまでに自治会や施設、各団体の研修会等で話をしてきました。費用は無料で、町内会や保護者会など少数の集まりでも開催できます。是非、お気軽にお問い合わせください。

☎ 社会福祉課障害福祉係 ☎ 24290（市役所1階）

世界遺産登録を目指す「咸宜園」 - 近世日本の教育遺産として - (人物編 原古処と原采蘋)

淡窓・咸宜園と交流のあった文人・墨客たち⑦

☎ 20268 閩世界遺産推進室（咸宜園教育研究センター内）



たんそうさん

原古処（名は震平、字は士明）は、筑前秋月の人で、詩人・儒学者として知られています。明和4年秋月藩士の二男として生まれ、その優れた資質を請われて天明2年16歳のとき秋月藩士原坦斎の養子となり、天明4年福岡の亀井南冥に徂徠学を学びます。その後、福岡藩支藩である秋月藩の藩校稽古館の教授となりますが、政変によって藩校を退任し私塾古処山堂を開き、また各地を遊歴し、菅茶山・菊池五山・大窪詩佛などの有名な漢詩人と交友し、詩人としての名を高めました。淡窓や頼山陽とは特に親交が深く、相互に宛てた書簡が多く残っており、門下生には村上佛山・吉田平陽などがいました。文政10年に没し、秋月のお寺にある墓の墓石正面の字は頼山陽の書、側面には淡窓が贈った追悼の詩が刻まれています。郷土の名峰からとって「古処」と号しました。

淡窓より15歳の年長で、淡窓の学んだ亀井塾では先輩にあたります。淡窓は古処を「南冥の門下に於いて、詩人の冠と称せり。南冥常に稱して曰く、文に豈（南冥の長男の昭陽）あり。詩に原震平ありと。（中略）古処も李白を学びたる人なり。天才飄逸にして、詩人の風あり」と評しています。当時、亀井塾において「亀原文詩」と、文章では亀井昭陽、詩作では原震平と並び評されていたといわれています。

原采蘋は、古処の長女で、幼少より学才があり、成長後は女流漢詩人として広く知られ、時には父の代講を勤めるなどしました。父の古処とともに各地を遊歴し、父の死後に江戸に出て活躍し、菅茶山・頼山陽・梁川星巖らと詩の交換をするなどしています。一生独身生活を送り、旅の途中、長州萩で病死しました。

原古処と采蘋の父娘は、文政3年7月に咸宜園を訪れています。淡窓の「懐旧樓筆記」によると「原震平、其の娘采蘋を携へて来訪せり。因つて宴会を設く。（中略）近日此の地に来り、我が家を訪へり。采蘋、時に歳二十三四なるべし。幼より読書文芸を学び、尤も詩に長せり。其の行事、磊々落落として男子に異ならず、又、能く豪飲せり。（中略）采蘋、後、東都に在り。謙吉東遊の時、相見せり。詞林に於て頗る名譽あるよし」と想い出を語っています。そのとき古処は54歳、采蘋は23歳、淡窓は39歳でした。

伝記の伝えるところによれば、長身で瓜実顔の美人であった采蘋は化粧せず、髪は長く梳り、一刀を腰に男装していたといわれています。

淡窓の弟の謙吉（旭莊）とは、若い頃に広島島の頼杏平のところへ逢っています。また旭莊の日記「日間瑣事備忘」にもしばしば采蘋の名が見え、江戸で塾を開いていた時には親しく往来して交友しています。



▲原古処肖像画 朝倉市秋月博物館蔵

食生活改善推進員さんのおすすめレシピ

キャベツとコーンのマヨサラダ

マヨネーズには野菜の苦みを抑える効果があるそうです。ピーマンなどの苦い野菜が苦手な人は、炒めるときに油の代わりにマヨネーズを使うと少し食べやすくなりますよ。



■材料■ (2人分)

キャベツ	80g	冷凍コーン	15g	塩こしょう	適宜
ハム	20g	マヨネーズ	小さじ1と1/2		

<作り方>

- ①キャベツは長さ4cm幅1cmの短冊切りにする。ハムも同様の短冊切りにする。
- ②湯を沸かし、キャベツとコーンをゆでる。
- ③ざるにあげ、しっかり水気をきる。
- ④材料を全て混ぜ、塩こしょうで味を調える。

☎ 健康保険課健康支援係 ☎ 243000（ウエルピア内）